

「きばっど」 南薩の社会教育

青少年教育の充実



人権教育の充実



家庭の教育力の向上



地域の教育力の向上



文化財の保存・活用



令和2年3月発行

南薩地区社会教育振興会



令和元年度 社会教育関係者・団体表彰



1 PTA関係

【優良PTA文部科学大臣表彰】

- ・立神中学校PTA(枕崎市)

【日本PTA全国協議会表彰】

- ・穎娃小学校PTA(南九州市)

【県PTA広報紙コンクール(平成30年度)】

- ・最優秀賞 南指宿中学校PTA(指宿市)
- ・佳作 県立加世田高等学校PTA(南さつま市)

【県PTA「たのしい子育てコンクール(三行詩)」】

【一般の部】

- ・佳作 花岡 あゆみ(指宿市立魚見小学校PTA)

2 公民館関係

【優良公民館表彰(文部科学大臣表彰)】

- ・今和泉校区公民館(指宿市)

【全国公民館連合会永年勤続職員表彰】

- ・園田 満代(南さつま市加世田地区公民館：公民館主事)
- ・有村 忍(南さつま市長屋地区公民館：公民館主事)
- ・田畑 スミ子(南さつま市小湊地区公民館：公民館主事)

【県公民館連絡協議会永年勤続表彰】

- ・迫田 貴代(指宿市立今和泉校区公民館：公民館主事)
- ・有馬 尚美(指宿市立山川校区公民館：公民館主事)
- ・鎌迫 光雄(指宿市立開開校区公民館：公民館主事)
- ・下西 公一(南さつま市益山地区公民館：公民館長)
- ・村田 敏雄(南さつま市大浦地区公民館：公民館長)
- ・坂口 輝男(南さつま市田布施地区公民館：公民館長)
- ・長井 典子(南さつま市玉林地区公民館：公民館主事)
- ・加藤 まさよ(南さつま市赤生木地区公民館：公民館主事)
- ・山神 春美(南さつま市笠沙地区公民館：公民館主事)
- ・米山 綾子(南さつま市清原地区公民館：公民館主事)
- ・鮫島 康文(南さつま市栗野地区公民館：公民館主事)
- ・佃 清秀(南九州市栗ヶ窪地区公民館)

3 社会教育振興会関係

【地区社会教育振興会表彰】

- ・桜山地区公民館(枕崎市)
- ・村山 順子(指宿市)
- ・竹ノ内 剛(南さつま市)

4 子ども会関係

【全国子ども会連合会表彰】

- ・田布川子ども会(枕崎市)
- ・海江田 宗順(南九州市)

【九州地区子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・下川床 泉(指宿市)

【県子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・吉松 幸夫(枕崎市)
- ・早川 俊英(南九州市)
- ・折尾 修司(南九州市)

【県優良少年少女団体表彰】

- ・板敷子ども会(枕崎市)
- ・折尾子ども会(南九州市)

【地区子ども会育成連絡協議会表彰】

- ・枕崎市子ども会育成連絡協議会(枕崎市)
- ・田中子ども会(枕崎市)
- ・指宿市子ども会育成連絡協議会(指宿市)
- ・潟山子ども会(指宿市)
- ・南さつま市子ども会育成連絡協議会(南さつま市)
- ・竹ノ内 剛(南さつま市)
- ・内山田校区子ども会(南さつま市)
- ・南九州市子ども会育成連絡協議会(南九州市)
- ・瀬戸口 和宏(南九州市)
- ・霜出校区子ども会育成連絡協議会(南九州市)

5 読書活動関係

【子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰】

【子供の読書活動優秀実践校】

- ・西指宿中学校(指宿市)

【子どもの読書活動推進優良図書館等鹿児島県教育委員会表彰】

【子どもの読書活動推進優良校】

- ・田布施小学校(南さつま市)
- ・枕崎高等学校(枕崎市)

【子どもの読書活動推進優良団体】

- ・金峰おはなし会(南さつま市)

【「毎月23日は子どもといっしょに読書の日」表彰】

【ポスター原画コンクール】

- ・特選 茅野 武志(枕崎市立桜山小学校3年)
- ・特選 武田 一美(南さつま市立万世中学校2年)
- ・入選 本地川 航(南さつま市立阿多小学校1年)
- ・入選 藤後 渚(南さつま市立万世小学校3年)
- ・入選 茅野 真琴(枕崎市立桜山小学校4年)

6 少年の主張鹿児島県大会

- ・最優秀賞 藤田 二誓(南さつま市立万世中3年)
- ・優良賞 仲 絢万音(指宿市立山川中3年)

7 地域が育む「かごしまの教育」県民週間

ポスター原画・標語関係

【ポスター原画】

- ・優秀賞 山下 希望(南さつま市立笠沙小学校5年)
- ・特選 塩屋 心優(南さつま市立笠沙小学校6年)
- ・特選 武田 一美(南さつま市立万世中学校3年)
- ・入選 久保 一粋(指宿市立利永小学校4年)
- ・入選 有村 美咲(南九州市立松原小学校5年)
- ・入選 平山 愛(指宿市立北指宿中学校3年)

【標語】

- ・特選 尾辻 蒼(指宿市立柳田小学校3年)
- ・入選 森菌 蓮斗(南さつま市立田布施小学校1年)
- ・入選 倉澤 礼穂(南さつま市立内山田小学校2年)
- ・入選 新留 諒真(南九州市立大丸小学校3年)

8 「家庭の日」絵画・ポスター・標語関係

【絵画の部】

- ・優秀賞 永山 花奈(南さつま市立笠沙小学校1年)
- ・優秀賞 小川 悠綸(指宿市立開開小学校3年)
- ・優秀賞 桐木平 藍琉(南九州市立大丸小学校5年)
- ・優良賞 西元 仁菜(指宿市立利永小学校1年)
- ・優良賞 廣瀬 心太郎(指宿市立開開小学校1年)
- ・優良賞 入野 心大(指宿市立開開小学校3年)
- ・優良賞 末永 麗桜(南九州市立大丸小学校5年)
- ・優良賞 松永 芽依(南九州市立松原小学校6年)
- ・優良賞 上久保 美癒(南九州市立大丸小学校6年)
- ・優良賞 箆原 愛珠(枕崎市立桜山中学校3年)
- ・努力賞 下野 桃花(南九州市立宮脇小学校1年)
- ・努力賞 永里 颯真(南九州市立中福良小学校1年)
- ・努力賞 武元 龍志(枕崎市立枕崎小学校2年)
- ・努力賞 村山 未桜(指宿市立開開小学校3年)
- ・努力賞 寶満 なぎ(枕崎市立枕崎小学校4年)
- ・努力賞 藤後 渚(南さつま市立万世小学校4年)
- ・努力賞 小川 愛心(指宿市立開開小学校5年)
- ・努力賞 本田 和季(南九州市立勝目小学校6年)
- ・努力賞 城森 乃愛(枕崎市立桜山中学校2年)

【ポスターの部】

- ・優秀賞 中川路 芽衣(枕崎市立桜山中学校1年)
- ・優良賞 前田 夏月(枕崎市立桜山中学校1年)

【標語の部】

- ・優秀賞 阿久根 樹依(枕崎市立枕崎小学校2年)
- ・優秀賞 前田 大輝(南さつま市立大浦小学校6年)
- ・優良賞 高崎 清稜(枕崎市立枕崎小学校3年)
- ・優良賞 下山 姫琉(枕崎市立別府小学校4年)
- ・優良賞 上久保 美癒(南九州市立大丸小学校6年)
- ・努力賞 加藤 珠ら(南さつま市立川畑小学校5年)
- ・努力賞 下村 花笑(枕崎市立桜山中学校1年)

家庭の教育力の向上

【地区PTA母親委員会】 令和元年7月18日（木）

母親委員会は運営規程で、PTA活動における母親会員の役割を認識し資質の向上を図るとともに、母親会員相互の交流と親睦を深めることを目的としています。

今年是指宿市ふれあいプラザなのはな館で、地区母親委員8人（各市P連の母親委員二人ずつ）が参加して、10月に行われる「地区PTA会員等研修会」に向けた協議が行われました。

まず事務局から、研修会の名称を「地区PTA母親研修会」から「地区PTA会員等研修会」へ変更した理由及び本年度の地区PTA連絡協議会の基本方針や努力点である、①会員の資質向上、②PTA組織・運営の強化、③「家庭学習60・90運動」の推進、④家庭教育の充実、⑤青少年の地域活動への参加奨励、⑥教育環境・条件の整備について説明がありました。次に、講演会とグループ別情報交換会の内容等について話し合い、今年「性」に関することをテーマに進めていくようにしました。最後に、当日の役割をそれぞれ分担して終わりました。

参加した母親委員が積極的に意見を出し合う様子から、本委員会の趣旨である母親会員の資質向上が、各単位PTAで図られつつある状況がうかがえました。



〈基本方針・努力点等の説明〉



〈協議の様子〉



【地区PTA会員等研修会】 令和元年10月23日（水）



これまでの「地区PTA母親研修会」の名称を改め、本年度から「地区PTA会員等研修会」として指宿市ふれあいプラザなのはな館の会議室で、それぞれの校種に児童生徒がいるPTA会員201人（内、父親26人）が参加して開催されました。先の地区PTA母親委員会で協議した役割に沿って、受付・進行・講師の対応・挨拶等を母親委員が中心となり進めていきました。



〈山神一益会長の挨拶〉

研修1では、参加者全員が36グループに分かれて、「子どもとの性に関する話題」をテーマに情報交換を行いました。36グループは小学校グループ、中・高等学校グループのように、同世代の子どもをもつ親同士6人程度で話ができるようにしました。

家庭ではなかなか話題にしにくいテーマでもあり初めは単発的な意見交換でしたが、時間が経つにつれてどのグループも夢中になるくらいの活発な意見交換ができていました。情報交換会の終わりに松原指導主事が紹介したグループの話題には、皆さん聞きながら聞き入り、共感している様子でした。

研修2では、県スクールカウンセラー・南九州市子ども相談センターアドバイザーの佐々木光江子氏に、「子どもを取り巻く性の現状～大人になる前に知ってほしいこと～」と題して講演していただきました。先生の講演は、県内の児童生徒の性に関する課題を踏まえ、正しい知識等を我が子に伝えることの大切さについてテンポよく展開され、またグループ協議も取り入れながら終始興味深く進めてくださいました。

アンケートには、「大変分かりやすい講演だった。」「家庭では話題にしにくく、性に関してあまり考えたことはなかったが、今日の講演は勉強になり参加して良かった。」「プライベートゾーンを初めて知った。」「今日から家庭でもできることをしていきたい。」「今までは恥ずかしくて言えないようなことでも、性に関する正しい知識を伝えるようにしたい。」などの感想が数多くありました。保護者としては、学校で行われる性教育と連携を図りながら、我が子への接し方を探っていくことが強く認識された研修会となりました。



〈受付の様子〉



〈佐々木光江子氏の講演〉



〈グループ協議〉

青少年教育の充実

【地区子ども会大会及び育成者・指導者研修会】 令和元年6月15日(土)

南さつま市立坊津学園で、地区内の小中高生及び育成者・指導者等417人が参加して開催されました。



まず、他の子ども会活動及び育成者の模範となる功績をたたえ、本年度は、3子ども会、1校区子ども会育成連絡協議会、2個人及び4市子ども会育成連絡協議会が表彰されました。

次に、住吉町子ども会(枕崎市)、湯山子ども会(指宿市)、内山田校区子ども会(南さつま市)、霜出校区子ども会育成連絡協議会(南九州市)が元気よく活動発表を行いました。



そして子どもたちは、6つのコーナーを設けた体育館で、KYT(危険予知トレーニング)、鳳凰高校の高校生クラブが準備したホバークラフトを用いた簡単なゲーム、南さつまコミュニティスポーツクラブが準備したニュースポーツ(ランドリーピンチ、マンカラ、いご手玉、リングキャッチ)を体験し、今後の子ども会活動の意欲を高める活動になりました。

育成者・指導者は、ランチ・ルームで、MBC南日本放送パーソナリティーのよし俣とよしげ氏から「どうせ一度の人生さ!生きてるだけでまるもうけ!」と題した講演を拝聴しました。前を向いて歩もうとするよし俣さんの姿に育成者・指導者の皆さんは引き込まれ、笑いの絶えない講演会となりました。



〈ニュースポーツの様子〉

← リングキャッチ

マンカラ →



〈よし俣とよしげ氏の講演〉

【地区子ども会ジュニア・リーダー研修会】 令和元年10月26日(土)

枕崎市において、中・高校生のジュニア・リーダー、高校生クラブ会員、子ども会指導者・育成者等26人が参加して開催されました。

火之神公園、お魚センターで、活動1「KYT(危険予知トレーニング)」、活動2「ネイチャーゲーム」、活動3「鯉の薫焼き体験」、活動4「鯉加工場見学」、活動5「しゃべり場(帯で伝えよう!本の魅力)」に取り組み、最後に活動の反省をしました。

中・高校生だけに、主体的な実践活動を進めたり他地域の人と交流しながら、お互いを知り合う場となりました。



〈吉松副会長挨拶〉



〈活動1〉



〈活動2〉



〈活動3〉

◎【北薩・南薩地区ジュニア・リーダー及び高校生クラブ等交流大会】 令和元年7月27日(土)~28日(日)

本地区の中・高校生13人、指導者等11人が参加して、今回は薩摩川内市立少年自然の家で行われました。2日間とも天候に恵まれ、総勢63人で活動1「アイスブレイク」、活動2「仲間づくりレクリエーション」、活動3「語ろう会」、活動4「レクリエーションダンス」、活動5「ウォークラリー」、活動6「シェアリング」に楽しく取り組みました。



〈活動3及びシェアリング〉



〈活動4〉



〈集合写真〉

【地区子ども会安全教育研修会・創作活動大会及び枕崎市子ども会大会】 令和元年11月16日(土)

枕崎小学校体育館で、地区内の子ども会員及び育成会員・指導者等202人が参加して開催されました。



〈下川床会長による表彰〉

まず、全国子ども会連合会表彰として田布川子ども会(枕崎市)、県優良少年少女団体表彰として2団体〔板敷子ども会(枕崎市)、折尾子ども会(南九州市)〕が、それぞれ賞状伝達されました。次に、枕崎市の籠原子ども会と高見町子ども会の活動発表がありました。



〈ボトルアクアリウム〉



〈活動発表〉

その後、枕崎ジュニア・リーダークラブによる安全教育研修(KYT)とニュースポーツ(いごてだまゲーム、輪投げ)、鹿児島水産高等学校栽培工学コースの生徒・職員指導によるボトルアクアリウム作成とおした創作活動を、親子でそれぞれ体験しました。親子ともに、楽しいふれあい活動になりました。



〈指導者へのお礼〉

人権教育の充実

【地区社会教育・文化財・社会体育行政研修会】 令和元年5月7日（火）

指宿市ふれあいプラザなのはな館において、各市教育委員会社会教育・文化財・社会体育の行政担当者等が参加して研修会が行われました。

今回は、来年度に本県で開催される「国体・全国障害者スポーツ大会」で、行政関係者として配慮すべき点についての認識を深める講演会になりました。

講演会では、鹿児島県国体・全国障害者スポーツ大会局の総務企画課専門員：岩城靖一郎氏に、「知ろう！参加しよう！『燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会』～国体・全国障害者スポーツ大会の概要～」と題して講演していただきました。中でも心のバリアフリー醸成としての各障害者競技の理解や選手である障害者側に寄りそう受け入れ側の態勢づくり、大会運営に関わるボランティアへの積極的参加や競技会場の地域住民の盛り上がりに向けた環境づくりなどの大切さが具体的に分かりました。アンケートからは、来年度に向けて気を引き締める様子がうかがえました。



〈岩城靖一郎氏の講演〉

【地区社会教育委員研修会兼人権教育ブロック別指導者研修会】 令和元年10月4日（金）

南さつま市民会館において、4市の社会教育委員等34人が参加して行われました。今回は、NPO法人「性同一性障害まりあの家」理事長の石川直子氏に「性同一性障害の子どもをもった親として」という演題で、我が子の実話に基づく講演をしていただきました。

3人姉妹の三女である「まりあ」さんは、3歳の頃から性同一性障害と難病を抱え、苦しんだり悩んだりしながらも男性として生きていく決意をし、高等学校を男性として卒業し、また高等学校入学前からは男性ホルモン治療を始めて現在生活しています。まだ社会的に認識されていなかった性同一性障害、病名が知られていなかった難病があるまりあさんと共に生きる母親としての苦悩・行動、そして偏見のない社会の大切さを切々と話してくださいました。子育てをしてこられた委員も多く、石川さんの話を聞きながら食い入るように聞いている姿が印象的でした。



〈石川直子氏の講演〉

地域の教育力の向上

【地区自治公民館経営研究会】 令和元年9月6日（金）

枕崎市サン・フレッシュ枕崎で行われ、各市公民館関係者・社会教育関係者200人が参加しました。



〈会場の様子〉



〈加藤 潤氏の講演〉



〈丸山教育長の挨拶〉

まず、NPO法人頼娃おこそ会副理事長の加藤潤氏が「地域の特性を活かした自治公民館活動の在り方について」と題して講演していただきました。頼娃を年間15万人の来訪者を迎えるまでになったまちづくりの手法としては、まず、①志を同じにする仲間づくりの立ち上げ、②自分たちでやれる小さいことから始め、メディア活用でのPRも含めた粘り強い継続だということです。そして、ある程度の形ができ話題になり始めると、行政からも評価されハード面等で動いてくれたということです。いくつかの事例を紹介されながら、活気あるまちづくりの道しるべを示してくださいました。

次に、指宿市立今和泉校区公民館の久保憲一郎館長が「今和泉校区の特性を活かした自治公民館活動について」と題してこれまでなかった校区文化祭の開催に至るまでの取組、三世代グラウンドゴルフ大会開催に向けたこれまでにない中学生を中心とした取組について発表していただきました。特に、中学生に任せて大成功した取組には、研究協議やアンケートで「斬新な取組だ。」「今後の地域の活性化に向けて参考となった。」といった声が多く聞かれました。



〈今和泉校区の発表〉



〈研究協議の様子〉



〈丸山教育長の挨拶〉

【地区社会教育委員研修会兼人権教育ブロック別指導者研修会】 令和元年10月4日（金）

南さつま市民会館で行われ、各市社会教育委員・生涯学習課長・社会教育課長等34人が参加しました。

グループ協議では、「南薩らしい地域学校協働活動の推進～持続可能な連携・協働のために～」をテーマにワールドカフェ方式によるグループ協議を行い、一昨年から3回目となる今回は一層活発で充実した協議となりました。

協議では、地域の少子高齢化を憂い、地域の活性化を期待する意見が相次ぎました。中でも、学校とも連携を図りながら、中・高校生を前面に出すような取組を進めたいという意見には、皆さん相づちを打っておられました。



〈瀬戸会長挨拶〉



〈下假屋所長挨拶〉



〈グループ協議〉



地域文化の継承・発展，文化財の保存・活用

【「山下・水流太鼓踊り」伝承活動】～枕崎市～



【11月24日郷土芸能大会での発表】

今から約400年前（1596年～1614年頃），薩摩藩士島津義弘公が度々の出陣の際，兵の士気を鼓舞するために踊らせたものだと言い伝えられています。現在では五穀豊穰を祝い神社に奉納しています。

10月28日～29日の両日，南方神社と妙見神社に奉納しています。中学生の鉦打ちと小学生の入鼓を囲みながら，大人の踊り子たちが円陣を作って踊ります。奉納までに，小・中学生は夏休みの夕方に2時間ほど個人練習を積み，10月からは参加者全員で夕方2時間ほど練習しながら踊りの継承に努めています。

踊り手の確保が課題になっていますが，高校生を含めた青壮年に理解・協力を得ています。

【地区文化財保護審議会委員等研修会】 令和元年5月29日(水)

枕崎市市民会館において開催され，各市の文化財保護審議会委員，県文化財保護指導委員，各市文化財行政担当者38人が参加し，文化財の保存・活用の充実について研修を行いました。



〈米山課長挨拶〉 〈丸山教育長挨拶〉

開会行事後，南九州市文化財保護審議会の厚村善人会長が発表された「ヘリテージマネージャーをどう存じますか？」の研究・事例を踏まえ研究協議を行いました。ヘリテージマネージャーとは，建築士でありながら歴史文化遺産の保全活用の手法を習得した人で「歴史文化遺産保全活用推進員」とも言われるそうです。初めて聞く人が多かったこともあり質問が目立った協議でしたが，文化遺産の活用の在り方に一石を投じてくださいました。その後，午後からの現地研修に先立ち，枕崎市文化財保護審議会の牛山好治委員から，主な市指定文化財の説明及び文化財保存で課題となる子どもたちの関わらせ方やいくつかの文化財を一つにまとめる思案の紹介がありました。

午後，井口俊二指定文化財係長と宮崎大和埋蔵文化財研究員から「令和元年度県文化財保護行政の重点施策等」についての講話があり，その後，現地研修に出掛けました。

現地研修では，枕崎市文化財保護審議会の山崎盛隆会長が案内してくださいました。樟脳小屋の跡地と栢原の信仰群を見学し，文化財保存の在り方について研修することでした。

【研究・事例発表】

【研究協議】

【開催地の課題】

【県文化財課の重点施策】

【現地研修】



〈南九州市の厚村会長〉



〈全体の様子〉



〈牛山委員〉



〈井口係長の講話〉



〈樟脳小屋跡〉



〈栢原の信仰群〉

【地区「指定文化財」巡回視察】 令和元年11月19日(火)

県文化財保護指導委員，各市文化財行政担当者，南薩教育事務所員の12人が参加して，4市輪番で行われる当視察の今回は，南九州市の文化財を視察しました。

瀬平公園の観音像一体と洞窟（市：有形文化財），番所鼻の溶結凝灰岩の環状プール群（県：名勝及び天然記念物），穎娃城跡地（県：史跡），水元神社の薩摩塔（市：有形民族文化財），清水磨崖仏（県：史跡），金山水車（轟製錬所）跡（県：史跡）について，南九州市教委文化財課の新地浩一郎主任主査の説明を受けながら視察しました。当日は快晴で，本年度に指定された番所鼻の溶結凝灰岩の環状プール群は見事なまでの光景でした。視察後，協議時間を設け，視察の趣旨である文化財個々の課題について今回視察した文化財を中心に意見交換をし，共同研究の充実に努めました。



〈番所鼻の溶結凝灰岩の環状プール群〉



〈穎娃城跡とシュウメイギク〉



〈薩摩塔〉



〈清水磨崖仏〉



〈研究協議〉



中学校生徒連盟活動の取組（地域の教育力の向上）

枕崎市では、枕崎中学校・桜山中学校・別府中学校・立神中学校の4中学校の生徒会役員で構成される、「中学校生徒連盟」が組織されています。「中学校生徒連盟」（学校等では、略して「中生連」と呼ばれています。）とは、各中学校が親睦を深め、互いに協力して各学校の生徒会の充実・発展を目的として、平成29年度から活動が行われています。

学期に1回、常任委員会及び顧問会を実施し、意見交換や交流を行い、各学校の生徒会が抱える課題を共有し、その解決策について話し合い、知恵を出し合っています。

また、枕崎市の自然や産業、歴史や文化・風土について学んだり、地域の課題の解決について意見交換をしたりすることで、地域に誇りを持ち、地域を担う人材となれるよう、「枕崎学」にも取り組んでいます。



〈「枕崎学」学習の様子〉

枕崎市中学校弁論大会（文化活動）



〈弁論大会最優秀賞受賞者〉

7月、枕崎市市民会館大ホールで枕崎市弁論大会が開催されました。市内の全中学校2年生が集まり、各学校の代表者8名（各校2名）が、学校、家庭、地域社会、友達とのかかわり等の中で考えていることや感じていることを発表しました。

本大会は、自分の意思を主体的に表現し相手の意見を正確に聞き取る能力を身に付けるとともに、主体的に活動する意欲を養い、郷土を担う中学生の育成を図ることを目指して行われているものです。本大会の特徴は、平成30年度から中学校生徒連盟が主催となり、司会進行、審査、表彰まで生徒役員の手で運営されることです。すばらしい発表と合わせて、生き生きと活動する生徒の姿が見られる大会です。

＜参加した生徒の感想＞

- 私は、市弁論大会での発表を通して、いろいろなことを学ぶことができました。その一つは、自分の意見を相手に伝えることのすばらしさです。それは、声のトーンや強弱、表情をその内容に応じて変化させるおもしろさや、緊張や恥ずかしさを少し我慢して自分の意見を伝えることで得られる達成感です。

弁論大会では、会場のみなさんが真剣に聞いてくださっていることが伝わってきて、私は、勇気をもって発表することができました。思い切って挑戦してよかったと思います。この経験を学校生活でも活かし、失敗を恐れたり恥ずかしがったりしないで自分の意見を堂々と相手に伝えていきたいです。

- 僕は、この弁論大会の係として、開会のあいさつをしたり、発表する順に発表者を呼んだりしました。客席からだとも見えないのに、弁論大会を運営するために、いろいろな係が協力して動いていることを今回知って、すごいと思いました。もちろん発表する人が主役だけれど、それを支える裏方の仕事も大事であることを実感しました。

これからは、学校生活や日常生活でも、積極的に協力することや誰かの支えになること、誰かに支えられていることを忘れずにいたいと思います。



〈弁論大会の運営についての話し合いの様子〉



指宿市の取組

「第3次指宿市子ども読書活動推進計画」の策定

令和元年7月に第3次指宿市子ども読書活動推進計画（指宿読書計画）を策定しました。この計画は「すべての子どもが読書に関心を持ち、その習慣を身に付け、生涯維持する環境を、大人が責任をもって整備するための指針となるもの」であり、今後約5年間にわたる子どもの読書活動に関する基本方針と具体的な活動計画を定めたものです。策定に当たっては、計4回の策定委員会を中心に検討を進め、その都度社会教育委員の会議や図書館協議会で報告し、そこでの意見も反映させながら進めました。

特に重視したことは次の点です。まず第2次指宿読書計画を振り返り、ブックスタート事業、図書館職員による市民講座でのおはなしボランティア人材育成活動、多くの学校や図書館が受賞した文部科学大臣や県教委による読書活動表彰等の成果を第3次でも大切にし、さらに発展させるようにしました。次に、市内全学校・図書館及び小中高の抽出児童生徒、その保護者に実施したアンケート結果をなるべく具体的に分析・考察することで、現状・課題を詳細に共有しながら指宿読書計画を策定できるようにしました。そして、寄せられた家庭や学校の活動事例・意見は指宿読書計画の中に引用するなど、「身近に感じられる計画」「実現性がある計画」「指宿市らしい計画」をめざしました。

その結果、指宿読書計画の基本目標を「子どもたちが一人でも多く本を読み、『心に残る1冊の本』と出会えるまち」とし、めざす子どもたちの姿を①読書への関心が高い子ども、②読書習慣を身に付けて維持している子ども、③心に残る1冊の本と出会っている子どもと設定しました。また、めざす子どもたちの姿から、家庭・学校・公立図書館・市教育委員会等でそれぞれ期待される数値目標を設定し、諸事業を的確に評価していくこととしました。そうすることで、指宿読書計画の実効性を一層高めることに繋がると考えました。（指宿読書計画は指宿市のホームページで見ることができます。）

「第3次指宿市子ども読書活動推進計画」



写真に写っている子どもは本館職員「第3次指宿市子ども読書活動推進計画」の策定に協力した市内各小学校の児童です。

「企画展『海を見つめた古代人—イブスキ人の起源—』

「指宿市考古博物館時遊館COCCOはしむれ」では毎年企画展を行っており、今年度は12月7日から3月15日の期間で「海を見つめた古代人—イブスキ人の起源—」を開催しました。

本企画展では、生物の誕生から始まり、アフリカ大陸を飛び出した人類はいつごろ日本列島に上陸し、そして現代へつながる我々の祖先となっていくのかという点を追究しています。指宿市西多羅ヶ迫遺跡や南摺ヶ浜遺跡、成川遺跡をはじめ鹿児島県内の遺跡から出土した土器や石器を展示しました。また、鹿児島女子短期大学の竹中正巳先生のご協力により、初公開となる鹿児島県内の人骨資料を県内の市町村から借用し、南薩地域と他地域の骨格の違いについても展示しました。その上で当地に生きた自分たちの祖先の姿を想像することによって、地元の方々に郷土愛や地域の文化財保護の啓発を促進することを目的としています。

当教育委員会では、市民への生涯学習の場の機会提供と文化財保護啓発活動の一環として、地元の歴史・文化の魅力について学んでいただく「学びのふるさと講座」を年5回開催しました。12月21日には鹿児島大学准教授の石田智子先生に「弥生時代のお墓：死のかたちの変化と多様性」をテーマに講演いただきました。企画展の内容に関連した講演であり、市内外から約40名の方々が受講され、成川遺跡や南摺ヶ浜遺跡に葬られた人々やその埋葬方法など多くのことについて学ぶ機会となりました。受講者の中には、指宿市出身の大学生も参加しており、幅広い世代の方々にふるさととの良さについて学んでいただく良い機会となりました。

また、ひとつづくりの事業の一環として、市内の小学5年生から中学2年生を対象とした「ジュニア学芸員養成講座」を開催し、7人の児童・生徒が受講しました。発掘調査体験や畑などから実際に土器を拾って遺跡発見に挑戦するなど学芸員の業務を実際に経験してもらい、地元の博物館をより知ってもらうように取り組みました。また、企画展の展示解説にもジュニア学芸員には来館者に企画展の見どころを伝える難しさも学んでもらいました。実際に博物館の業務を学んでもらうことで、地元の歴史・文化に愛着をもってもらうように今後も活動を続けていく予定です。





大いに盛り上がった！ 令和初の成人式

南さつま市では「二十歳を迎えた青年が、大人としての責任や義務を自覚し、強く生き抜くための意欲を高めるとともに、南さつま市のまちづくりのための大きな力となるよう、新成人の門出を祝い激励する。」ことを趣旨とした成人式を、毎年1月3日に開催しています。今年は各中学校出身者から集まった、新成人有志の13人からなる成人式運営委員とともに企画・運営を行いました。

成人式は第1部と第2部で構成されています。第1部の記念式典では、国歌斉唱、市民憲章唱和、市民歌「夢を紡ぐ」の合唱、式辞や祝辞、記念品の贈呈を行った後、二人の新成人代表が誓いのことばを発表しました。

第2部の新成人門出のつどいでは、成人式運営委員が中学校時代を振り返ることができる、当事者目線のイベントを企画しました。新成人による楽しい進行のもと、中学校時代のアルバム放映や、新成人から恩師の印象を語るビデオレター、恩師のサプライズ登場等多くの見どころが詰まったものとなりました。中でも盛り上がったのは、恩師のサプライズ登場で、新成人からは歓声が上がりました。恩師の先生方も久しぶりに会った教え子たちを、懐かしく思っている様子でした。

今後も新成人が楽しめることができ、かつ成人としての自覚をもつことができるような成人式にしていきたいと考えています。



〈令和2年南さつま市成人式運営委員〉



〈第2部で恩師との再会を喜ぶ新成人〉

「図書館を使った調べる学習コンクール」

南さつま市立図書館では、「第3回南さつま市立図書館を使った調べる学習コンクール」を開催しました。この調べる学習コンクールは、子どもたちから一般の方まで、図書館を利用して身近な疑問や知らないことを調べることに親しんでもらおうと全国各地で開催されています。

南さつま市では市内の小学生と坊津学園6年生までの児童からユニークで独創性に富んだ57作品が寄せられました。これらの作品の中から最優秀賞や審査員特別賞などが選ばれ、11月3日（日）に中央図書館で開催した図書感謝祭で表彰式を行いました。受賞作品の中からさらに上位の2作品を選び、全国コンクールに推薦しました。今年で23回目となる全国コンクールには、各地から11万6千を超える作品が寄せられ、南さつま市から推薦した2作品は、それぞれ奨励賞と佳作に選ばれました。

次回の更なるレベルアップのために、図書館では「おたすけ教室」の開催や調べる学習支援など、子どもたちの調べる力を高めるための活動に取り組みたいと考えています。



〈おたすけ教室〉



〈表彰式〉



ふるさと体験学級 茶レンジ隊

心豊かで夢をもった思いやりのあるたくましい青少年を育成するために、郷土の自然や文化について、体験を通し学ぶことのできる「ふるさと体験学級『茶レンジ隊』」を年間5回開設しています。これは、本市合併前に各町で実施していた体験活動を平成21年度に一つに集約する際、南九州市特産の「茶」と「チャレンジ」をかけて「茶レンジ隊」にしたものです。

例年、青少年の体験活動事業として児童・生徒をはじめ、市民のニーズの把握に努めながら、社会教育関係団体等と連携し、計画的・意図的な体験活動を企画・運営しています。今後も「茶レンジ隊」が親しまれるように、地域素材の活用や地域の方々を指導者として招くことで、南九州市特有の事業を展開していき、健全な青少年育成に繋げていきます。

【プログラム例(令和元年度分)】

回	タイトル	活動内容
第1回	目指せ、 ^{テイ} パ茶シエ!	さつまいもを使ったお菓子作り, おいしいお茶の入れ方
第2回	茶レンジキャンプ(雨天中止)	竹細工, テント設営, 野外炊飯, 知覧武家屋敷での読み聞かせ
第3回	川で遊ぼう DAY(雨天中止)	川遊び, 魚釣り, いかだ下り, 岩登り
第4回	ミニ門松を作ってみよう!	創作活動(門松作り)
第5回	伝統工芸にふれてみよう!	創作活動(蒔絵(まきえ)・螺鈿細工(らでんざいく)体験)



さつまいものお菓子作り



ミニ門松づくり

南九州市自主文化事業

南九州市では毎年、自主文化事業として南九州市民大学及び陸上自衛隊西部方面音楽隊クリスマスコンサートを開催しています。

南九州市民大学は、楽しい講話などに触れることで自分を見つめ直し、心豊かな生活を目指そうとするもので、年5回、各方面から多彩なゲストをお迎えし開催しています。今年度はMBCタレントの財津三奈氏、元関脇寺尾関ことしころやまつねゆき鏝山矩幸氏、萩金谷天満宮宮司のみなみのぶたか陽信孝氏、落語家の桂竹丸氏、前南九州市教育長の中村洋志氏をお迎えし、笑いあり感動ありの90分間を楽しんでもらいました。ただ、受講生の年齢が高齢化していることもあり、前年度より受講者数が減少していますので、若者にも興味のある講師選定等も考慮していく必要があると感じています。

また、陸上自衛隊西部方面音楽隊クリスマスコンサート(毎年12月中旬頃実施)は、市民の音楽文化への関心と意識の高揚等を図るため、入場無料で開催しています。入場券配布時には、早朝から長蛇の列ができる程大人気の事業となっています。

他にも、児童を対象とした市町村による青少年劇場や幼児・小学校低学年を対象としたマスクプレイミュージカルも隔年毎に開催しています。



市民大学(鏝山矩幸氏)



クリスマスコンサート



市町村による青少年劇場(一休さん)

枕崎市

ばんく がしんこん
万句賀親乾

S 48.10.5 市指定

喜入氏十代領主久亮が晩年白寿の祈願をこめて詠んだ連歌集。享保6年秋から山本度好を相手に前半五千句を共詠しました。度好が鹿籠を去ってからの、つまり後半五千句は独詠です。題材に鹿籠の風物を扱ったものが多く、「この村に腐れ鯛の頭して 肥糞たんと入れる田の原 衣手に鼻糞いでぞ通りけり」など当時の鹿籠浦の様子がうかがえるものが多いです。

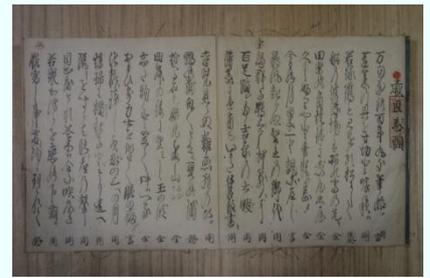
白寿の願いも空しく、翌7年(1722年)10月15日 一万句を詠み終え、六十五歳をもって没しました。一万句の連歌集は国内でもめずらしいとされています。



〈表紙〉



〈万句両詠大冊〉



〈歳良巻頭〉

指宿市

いまいずみしまづ け ぼ ち
今和泉島津家墓地

S 57.11.16 市指定



〈今和泉島津家墓地の近景〉

今和泉島津家墓地は指宿北部の岩本地区に所在しており、昭和57年(1982年)に指宿市の史跡に指定されています。墓地内には、今和泉島津家初代当主島津忠卿から6代当主島津忠冬の歴代当主や当主の室の墓石、献灯された燈籠が並び、石造物等も見られます。

平成18年(2006年)に墓地の現状を確認するために、詳細な平面測量調査を実施し、塔身の風化が進んでいた7号墓と10号墓の保存処理を行いました。その際、墓石を解体し、塔身の中を調査すると木製の箱がそれぞれ1箱埋葬されていました。その箱の側面に墨書が見られ、詳細に分析・調査してみると、7号墓は今和泉島津家2代当主島津忠温であり、10号墓は忠温室の「於達」である可能性が高いことが分かりました。

その後、平成21年(2009年)において、島津宗家の墓所と、一門家(越前島津家・加治木島津家・垂水島津家・今和泉島津家)の墓所、及び宮之城島津家墓所をひとつのまとまりとし、近世大名墓所として国指定化に向けて調査することになり、指宿市でも平成27年度～平成30年度にかけて測量調査と墓地敷地の発掘調査を行いました。

調査によって、墓地の造成過程・墓石の形態から見た今和泉島津家の墓地造営思想等が見えてきました。現在の墓域が完成するまで、敷地拡張を12回行っており、墓石の形態・配置は初代・2代親族グループ、4代親族グループ、3・4代親族グループ、5・6代親族グループの4グループに分かれていることが確認できました。また、初代当主忠卿の墓石の大きさや墓石を覆っていた建物規模等から、初代を頂点とした墓造りがされていたことが分かりました。

しかし、5代当主忠剛と6代当主忠冬の墓石のサイズは他グループを凌駕していますが、他グループと別の敷地に造立されています。その理由は、5代当主忠剛が江戸幕府13代将軍徳川家定の御台所(篤姫)の実父であることから、初代当主への崇拝を表しつつ、将軍の岳父としての位置付けを表したと考えられます。

このように、今和泉島津家墓地は、墓域・墓石の造営を通して今和泉島津家のあり方を具体的に表しています。このことは、単に鹿児島藩の最上位の家格の家のあり方だけでなく、藩のあり方をも知ることができる貴重な文化財であることを示しています。なお、本墓地は令和元年11月15日に鹿児島市の島津宗家の墓所等とともに、国の文化審議会の答申が出されていますので、間もなく国の史跡に指定される予定です。



〈今和泉島津家墓地の空撮〉

南さつま市

重要伝統的建造物群保存地区「加世田麓」

R1.12.23 国選定

加世田麓は、南さつま市加世田武田、加世田本町、加世田麓町の一部の約20haで、知覧・出水・入来に続く県内4例目の選定となります。「麓」は中世山城の周辺に配置された武家屋敷群ですが、知覧や出水のような近世の都市計画によって新しく作られたものではなく、別府城を取り囲むようにその麓に形成された武家屋敷群です。自然地形に沿って曲線を描く南北の街路（馬場）と東西の小路は、近世以来の姿をよく留めており、近世の武家住宅やその形式を引き継ぐ主屋をはじめ、益山用水とそこに架かる石橋、敷地を画する石垣や生垣、腕木門などとともに、地形を巧みに活かして形成された麓の独特な歴史的風致をよく伝えていきます。1768年に益山用水が麓を南北に貫くように作られ、250年前から変わらない、用水路にかかる石橋を渡って武家門をくぐる加世田麓ならではの町並みは、こうして作られました。

イヌマキの生垣と石垣に囲まれた武家住宅や近代洋風建築など、江戸時代以降の多様な建造物が残され、自然・社会・文化の上に先人たちが築き、暮らし、伝えてきた加世田麓の歴史的な町並みを「生きている町並み博物館」として保存・活用し、よりよい形で後世に伝えていくことが大切です。



〈重要伝統的建造物群保存地区「加世田麓」〉

南九州市

番所鼻の溶結凝灰岩の環状プール群

H31.4.19 県指定



南九州市頰娃町別府の番所鼻公園は、隣接するタツノオトシゴハウスや近くの釜蓋神社とともに南九州市を代表する観光地の一つです。この公園では、長い年月をかけて火山と波の力で造られた珍しい地形を見ることができます。平成31年4月に公園の海岸に広がる環状プール群が、鹿児島県指定文化財の名勝と天然記念物に重複指定されました。重複指定は鹿児島県指定文化財としては初めての事例です。

溶結凝灰岩は、約10万年前に火山から噴出した火砕流や火山灰が降り積もり、圧力と熱で固まったもので、鹿児島県内各地で見ることができます。この岩は層によって硬いところ、柔らかいところがあります。番所鼻周辺では、柔らかい層が波で浸食されて、環のように陥没した地形が多くみられ、「環状プール」、「環状岩礁」と呼ばれています。指定範囲にあるのは3つのプールですが、水成川河口から枕崎市にかけての海岸線に数多く分布し、独特の風景を形作り、港として利用されているものもあり、かつて日本各地と交易をしていた南薩の海運商人の拠点でもありました。またこれらのプール内は波が穏やかなため、様々な生物が生息しており観察会等も開かれています。

このような環状プールの作る独特の地形に加え、番所鼻公園からは、東に開聞岳や大隅半島、西は枕崎や坊津の山々、南には三島村の硫黄島、竹島、黒島、天気が良ければ屋久島も観られます。特に東側の海岸線には目立つ人工物がないために、雄大な海岸線を見渡すことができます。水成川河口地域から番所鼻にかけては、平安時代の歌人である能因法師が薩摩の名所として紹介した「みなり川」とされ、また江戸時代に測量のために訪れた伊能忠敬が、この景色を絶賛したと伝わっており昔から景勝地として知られてきました。

自然の造形のダイナミックさとあわせて、南薩の歴史や文化を堪能できる公園となっています。周辺の観光地とあわせてぜひ訪れてみてください。



〈子ども学芸員の観察会〉